● 学生確保や地域医療等に関する教育、その他人材育成等に係る取組について（歯科専門職養成校）

資料２－２

No	機関・団体等名	事業・取組の名称	事業開始(予定)年度	対象	事業・取組実施の背景	事業・取組の概要	事業の実績	実施に当たっての工夫など	実施にあたっての課題
1	北海道大学大学院歯学研究院	学部生の確保	令和６年度	高校生、受験生	歯学部入試倍率の低迷	歯学部ホームページのリニューアル、オンライン進学相談会の実施	入試倍率がこれまでの平均3.2倍程度から4.1倍に増加、オンライン相談会でのホームページ内容への問い合わせ数増加	日本全国へのアピールとして、みやすい・わかりやすいホームページの整備を行なった	
2	北海道大学大学院歯学研究院	大学院生の確保	令和６年度	研修歯科医等	大学院進学者数の減少		大学院生定員40名のところ45名の合格者を確保 （大学院を「医歯学総合研究科」としている他大学では、実質的に、歯学研究科の合格者が10名に満たないところもある）		海外留学生の比率が年々上昇している（他大学も同様の傾向）
3	北海道大学大学院歯学研究院	学位修得後におけるキャリアパス・リカレント教育の確保		歯科医師（学位取得後）	学位取得後のキャリアパスが限られていることから、若手ポスト増加のために実施	研究院長付き助教（２年間・再任無）、および、学術研究員（単年度）としての雇用	ここ２、３年で研究院長付き助教は20名以上、学術研究員を30名以上雇用、北大全体としても高く評価	歯学研究院の独自の取組として実施	
4	北海道大学大学院歯学研究院	学位修得後におけるキャリアパス・リカレント教育の確保		歯科医師（学位取得後）	関連病院に勤務しても、北海道大学歯学研究院としての立場を与えることで、研究・科研費の維持、ならびに、個人のキャリアの継続を図ることを目的として実施	専門研究員制度を創設	令和７年度は約20名が専門研究員に申請	歯学研究院の独自の取組として実施	
5	北海道大学大学院歯学研究院	新入学生に対する新カリキュラム改革	令和７年度	令和７年度以降入学の歯学部生	次世代の歯科医師育成を見据えたカリキュラムを作成	「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」をキャッチフレーズに、カリキュラムを全面改訂 ①総合歯科の新設 ②地域社会との共創（市中病院、診療所の見学、訪問診療実習の実施） ③学部生・研修医のシームレスな連携、共同実習・研修　など	カリキュラムの作成は概ね完了、次年度より運用開始	他大学に先んじた近未来的カリキュラム編成を行なった（コアカリにそった科目、デジタル化・AIを駆使した授業・実習、臨床教授などの称号付与と学生実習、海外短期留学、研究配属、病院での患者実習における協議会にあり方、CBT/OSCEの実施時期の変更、SDGなど・・・）	
6	北海道大学大学院歯学研究院	臨床研修プログラム改革		研修医	大学における臨床研修希望者の減少、魅力向上のため	①複合型プログラムでは、協力型臨床研修施設で４ヶ月間の研修実施（釧路市、日高郡、南幌町、岩見沢市などを含む） ②総合歯科の新設 ③地域社会との共創（市中病院、診療所の見学、訪問診療研修の実施） ④学部生・研修医のシームレスな連携、共同実習・研修　など	順次導入中	・口腔総合治療学教室の創設によるマンパワーの増大 ・大学院医局説明会（専門医説明会）を研修医から5年生へ など	
7	北海道大学大学院歯学研究院	地域歯科医療に関する講義の実施	令和６年度	歯学部6年生	道内の地域歯科医療の現状と展望を講義するため	道内の地域歯科医療の現状と展望を講義	90分講義、1回（社会歯科学）	実務家による講義	卒業年次の1回の講義であるため、学部教育期間における継続的な講義の展開を検討している
8	北海道大学大学院歯学研究院	地域歯科医療に関する講義の実施	令和６年度	歯学部2年生	歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）：D-6 多職種連携、チーム医療、地域医療　に沿う	地域保健と保健行政に関する講義	90分講義、2回（衛生公衆衛生学・予防歯科学Ⅰ）	教員による講義	教科書ベースの講義にとどまっているため、今後、実務経験のある教員の養成を進める
9	北海道大学大学院歯学研究院	地域歯科医療に関する講義の実施	令和６年度	歯学部3年生	歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）：D-6 多職種連携、チーム医療、地域医療　に沿う	地域口腔保健に関する講義	90分講義、1回（衛生公衆衛生学・予防歯科学Ⅱ）	教員による講義	教科書ベースの講義にとどまっているため、今後、実務経験のある教員の養成を進める
10	北海道大学大学院歯学研究院	地域歯科保健医療に関する実習の実施	令和５年度	歯学部3年生	地域歯科保健医療に関するデータ分析体験を通じて現状を理解してもらうため	地域口腔保健に関するデータ可視化、分析体験	フロンティア基礎実習（教室配属）	教員による講義、オープンデータ等を用いた地域のデータ収集・集計・可視化の体験	希望者が配属される形式のため、対象者が限られている（昨年度２名、本年度４名）

● 学生確保や地域医療等に関する教育、その他人材育成等に係る取組について（歯科専門職養成校）

資料２－２

No	機 関 ・ 団 体 等 名	事業・取組の名称	事業開始(予定)年度	対象	事業・取組実施の背景	事業・取組の概要	事業の実績	実施に当たっての工夫など	実施にあたっての課題
11	北海道医療大学歯学部	特待奨学生制度	令和2年度から制度拡充（特待区分の追加）	歯学部入学生	将来、歯科医学・歯科医療の分野をリードするという高い志を持ち、人物・学業成績ともに優れている入学者を支援する奨学金制度	①S特待とA特待を設定 ②S特待：授業料が国立大学と同水準 ③A特待：授業料の半額相当を免除	①S特待の採用人数：5名 ②A特待の採用人数：7名	特待奨学生制度については、受験生の関心も高く、入試広報課が周知を継続的に図っている。また、本制度に関する独自パンフレットを作成し、本学での教育システムについても紹介している。	特待奨学生で入学した学生の卒業後のキャリアパスについても、今後分析する必要がある。
12	北海道医療大学	オープンキャンパス	令和6年度	高校生	本学での教育プログラムの概要を受験生に理解してもらう。	歯科医師の業務を疑似的に体験するとともに、歯学部教育プログラムの概要を説明する。	キャンパス内で行うオープンキャンパス（3回分）に加えて、出張型のオープンキャンパスを道内で開催した。	参加型プログラムを準備し、より直観的に歯科医師の仕事を理解してもらうように工夫している。	実施時期の調整等。
13	北海道医療大学歯学部	歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に基づく教育	令和5年度	令和5年度以降に入学した歯学部学生	令和4年度改訂版では医師と歯科医師に求められる基本的な資質・能力を共通化し、「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」をキャッチフレーズとしている。	歯学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版を踏まえた北海道医療大学のカリキュラム改善点は以下のとおり。 ①薬学教育との連携（基礎科目シラバスの一部共通化の試み） ②歯科専門職および他の専門職との連携 ③地域連携の拡充（行政と専門職団体） ④データサイエンス教育の充実 ⑤高齢者・障害者歯科学教育の拡充 ⑥研究に関与できる基盤の形成	カリキュラムの見直しを漸次進めており、これまで実績があった多職種連携教育に加えて、「社会歯科学」や臨床実習の枠において行政から地域歯科保健医療に関する講義・演習の時間を令和7年度から増している。	演習レポートについては、学生自身の出身地や将来勤務したいと考えている地域の歯科保健状況を二次資料で把握したうえで、学生の目線で課題分析と改善策を提案する機会としている。また、臨床実習の一貫として歯学生、歯科衛生士学生、歯科技工士学生の三者合同プログラムを実施している。	多職種教育については他学部の教員から学ぶ機会は設定できているが、異なる学部生同士を同じプログラムに参加させる状況には至っていない。
14	北海道医療大学	地域連携推進センターの設置	平成29年度	道内自治体	「地域連携に関する基本方針」（平成28年度）に基づき、学長直轄の地域連携推進センターを設置した。	①定期的な連携協議会の開催 ②生涯学習事業（公開講座）の実施	地域包括連携協定を締結した自治体 ①北広島市 ②当別町 ③由仁町 ④浜頓別町 ⑤苫小牧市 ⑥滝川市 ⑦江差町　など	新規の連携先については随時対応している。	各地域のニーズに見合った連携の方策を継続的に検討・実施する必要がある。
15	北海道医療大学	医療職体験ビレッジ、ジョブフェスinきたひろ、サツドラFES2024、一日歯医者さん	令和6年度	幼児、小学生	歯科医師について、その仕事や魅力を広く次世代に伝えることを目的とする。	①職業疑似体験	歯科医師の魅力に気づいてもらうプログラムは好評であり、定員枠はすぐに予約で埋まった。	日程によっては歯学部在学生も参画して準備にあたる。	日程および場所の制約がある場合、実施するプログラムに工夫が必要となる。
16	北海道医療大学	歯科衛生士養成校および歯科技工士養成校学生と本学歯学部5年の合同臨床実習	令和6年度	歯学部5年に在籍する学部生	臨床実習の一環として、歯科専門職間の合同実習を行い、連携スキルの醸成を図る。	歯科専門職間の教育の垣根を取り払い、より実践的な臨床スキルと連携のためのコミュニケーション能力を養成する。	学生の意識・意欲が高まり、高い教育効果を示している。今後も継続して実施する予定。	事前の教員間の打合せを緊密に行う。	日程調整を含め、事前の準備を計画的に進める必要がある。

● 学生確保や地域医療等に関する教育、その他人材育成等に係る取組について（歯科専門職養成校）

資料２－２

No	機関・団体等名	事業・取組の名称	事業開始(予定)年度	対象	事業・取組実施の背景	事業・取組の概要	事業の実績	実施に当たっての工夫など	実施にあたっての課題
17	北海道医療大学附属歯科衛生士専門学校	医療職体験ビレッジ、ジョブフェスinきたひろ、サツドラFES2024	令和６年度	幼児、小学生	歯科衛生士就業者の減少や歯科衛生士を目指す学生の減少が著しいことから、歯科衛生士の職種について広くアピールをすることで幼児・小中学生、保護者に興味を持たせる	①職業体験		①在学生と教職員が一体となって取り組む②子供たちが楽しみながら体験できる内容を選択する。③作品を持ち帰ってもらうことで記憶にとどめてもらう。④同伴している保護者に対し歯科衛生士の仕事について話をすると同時に口の健康についても情報伝達する。	複数回訪問する児童と保護者がいるため実施内容に工夫が必要となる。限られた人数とスペースでの展開になるため実施できることに限界がある。
18	北海道医療大学附属歯科衛生士専門学校	オープンキャンパス・進学相談会		高校生	18歳人口の減少や歯科衛生士を目指す学生の減少が著しいことから、歯科衛生士の職種をアピールをする	①歯科衛生士お仕事紹介 ②本校の特色ある教育を紹介 ③職業体験	オープンキャンパスは年8回在学生と専任教員で実施。進学相談会は道内の高等学校にて専任教員が実施。	①歯科衛生士の職業を紹介する。②本校における教育の特色を理解してもらう。③職業体験から歯科衛生士に興味を持たせる。④在校生との交流を増やし情報交換の場とする。⑤開催日によっては複数学科への参加が可能になるようにしている。	参加者の確保、実施時期や内容、在学生の協力確保が課題。
19	北海道医療大学附属歯科衛生士専門学校	全学連携地域包括ケア実践演習		本学３年生、各学部学科の上級学年	保健・医療・福祉において単独で問題解決することは不可能である。異なる知識・能力を持つ複数の専門家が協働することが必須となっている	多職種連携の実態を知り、得られた知識について話し合いまとめる過程を通して保健・医療・福祉の分野における多職種連携を学ぶことを目的にしている。	①まとめた内容を発表する ②ルーブリック評価と自己評価の実施 ③ジェネリックスキルテストの実施	①学生主体で実施すること ②教員が学生同士のコミュニケーションをとりやすい環境を整備すること ③それぞれが専門職として協力すること	実施時期の調整、学生への周知方法の検討。
20	北海道医療大学附属歯科衛生士専門学校	専門実践教育訓練講座	令和７年度	社会人入学者	社会人がスキルアップし歯科衛生士として就業できるよう支援	一定の要件を満たす社会人入学者が専門実践教育訓練を受講し修了した際に本人が教育訓練施設に支払った訓練費用の一定割合を支給する。		社会人学生の入学時に個別に対応する。	社会人への広報をどのようにしていくのかを検討する必要がある。
21	北海道歯科技工士養成機関連絡協議会	専任教員研修会	令和6年度	会員校3校の専任教員	歯科技工士養成校の専任教員の学生対応などの資質向上を目的とする。	会員校3校の持ち回りで年に1回開催し、テーマは年度の主管校が決定する。今年度は本校が担当した。 今年度は㈱松風、政氏　勲　氏によるCAD/CAMについて講演を拝聴した。	毎年、夏季休暇期間に開催している。コロナ禍のため4年ぶりの開催となった。昨年は8月6日に「かでる2.7」において開催した。 参加者は12名。	歯科医療及び歯科技工技術の向上を目的とするばかりではなく、学生の精神的な悩みなどに対応する方法など新しいテーマを模索している。	テーマ決定に苦慮する場合が多い。 会計規模が小さいため講師選定に苦労する。
22	北海道歯科技術専門学校	広報活動（学生募集）及び教育活動	令和6年度 令和7年度も実施予定	社会人や高校生及び中学生	一般社会人や高校生、中学生に歯科技工の魅力及び職業内容の紹介。	①札幌駅地下歩行空間での一般人へ歯科技工を紹介した。 ②学校ホームページの維持管理更新を行った。 ③オープンキャンパスを年間10回ほど実施した。 ④進路相談業者が主催する進学相談会に出席した。 ⑤進路相談業者と高校が主催する職業体験型相談会に参加した。 ⑥近郊の中学校が実施する職業体験講座開催に協力した。	①は毎年参加してる。 ②③④⑤⑥は適宜参加実施した。 ⑦⑧⑨は毎年秋季に実施している。 研究科と校友会主催の学術研修会は、コロナ禍のため4年ほど中止したが、今年度再開し校友会の研修会は今回で33回目を迎えた。多くの卒業生に出席頂いた。 高校訪問（道内200校前後）は春季を目途に行った。	広く一般社会人や高校生、中学生に歯科技工の内容を理解いただくために、歯科技工物（インレーやクラウン、FDやPD、インプラント上部構造、矯正装置や小児義歯など）の展示と常温重合レジンを用いた技工操作を体験していただく。 ビジュアル機器を用いて歯科医療の功績や歯科技工の匠の技（審美歯科など）を紹介し、人工臓器である歯科修復物の重要性について理解していただく。 オープンキャンパスや学術研修会の開催についてSNSを利用して告知している。	私立学校として最大限の広報活動と教育活動を行っているが、昨今の入学者の著しい減少が一番の課題でる。 （PDF⑤参照） 歯科技工士の高齢化が進んでおり、将来的には益々歯科技工士の重要性が増すものと思われます。
23	北海道歯科技術専門学校	広報活動（学生募集）及び教育活動	令和6年度 令和7年度も実施予定	高等学校進路指導部					

● 学生確保や地域医療等に関する教育、その他人材育成等に係る取組について（歯科専門職養成校）

資料２－２

No	機 関 ・ 団 体 等 名	事業・取組の名称	事業開始(予定)年度	対象	事業・取組実施の背景	事業・取組の概要	事業の実績	実施に当たっての工夫など	実施にあたっての課題
24	北海道歯科技術専門学校	北海道医療大学と連携した実習の実施	令和6年度 令和7年度も実施予定	本校研究科学生	本校研究科生に、歯科医師（歯科学生）との連携を体験させたい。	⑦道医療大学歯学部学生(5年生）と本校研究科学生間で、CAD/CAM実習を共同実施した。(PDF②参照)			
25	北海道歯科技術専門学校	学術研修会の実施	令和6年度 令和7年度も実施予定	本校研究科学生 本校卒業生（校友会会員）	歯科医療及び歯科技工の進歩発展は著しく、有資格者の歯科技工士に対し最新のトレンドを紹介する必要がある。	⑧本校研究科が企画する学術研修会を年2回開催実施した。(PDF③参照) ⑨本校校友会（同窓会）が企画する学術研修会を年1回開催した。(PDF④参照)			
26	北海道歯科技術専門学校	付属研究科の設置	令和6年度 令和7年度も実施予定	本校卒業生、他の養成機関卒業生で技工士免許取得者	歯科技工士教育において本科2年間での教育では即戦力となる人材の育成は困難であるとの認識があり、41年前に1年間の卒後研修施設として付属研究科を設置した。 進学希望者の増加により施設や機材を別棟に移設し、最大27名の定員を確保している。	開設当初は少人数の進学者であったが、最近の本科卒業後の研究科進学者は卒業生の45％になり(PDF①参照）、修了生の離職率は明らかに低いと感じる。	今年度までの修了生は503名。本校全卒業生の約1/4にあたる。	研究科では保健所に歯科技工所の登録を行っており、複数の外部非常勤講師の授業や実技講習会の実施,近隣の歯科医師の協力を得てインレー、クラウンなどの軽微な臨床技工を行ってセット見学なども実施して歯科医からのアドバイスを頂いている。 進学当初学生全員にB型肝炎予防接種を行っている。また、親日国である台湾に海外研修旅行を実施し台湾医科大学での研修や名所旧跡を訪問している。	本科入学者の減少が著しくこの体制を維持するのが非常に困難になりつつある。(PDF⑤参照)
27	北海道口腔保健学会	学術大会の開催	平成22年度から	歯科医療従事者など	北海道の口腔保健学の進歩と発展を図り、道民の健康と福祉の増進に寄与するために実施	口腔保健に関する講演やシンポジウムの開催，研究発表	年1回実施	講演やシンポジウムに関して、国全体の歯科口腔保健の動向を見据えながら、道内の今後の歯科口腔保健の推進に寄与する内容を企画している	今後の歯科口腔保健を担う若手の歯科医師や歯科衛生士の会員が少ない
28	北海道口腔保健学会	地域歯科保健施策に関する自治体への専門的技術支援		道内の行政における歯科保健担当者（歯科専門職）	道内の歯科口腔保健の推進に寄与するため	北海道および札幌市の行政歯科専門職との勉強会	年2回実施	課題ごとに専門分野の大学関係者等をメンバーとすることで、多方面から考えることが可能になるように工夫している	